

- 本園の自己評価は、本園の教育・保育目標・育てたい子ども像等を基に、職員が子どもや保護者への対応、特別支援教育、研修や研究等、それぞれの項目について自己評価したものです。
- その後、学校関係者評価委員会において、本園の自己評価結果が適切であるか、保護者アンケートの結果等も踏まえて、評価委員の皆様よりご助言をいただき、「自己評価及び学校関係者評価書」にまとめました。
- この評価書に基づいて、来年度、本園の取組がよりよいものとなるよう最大限改善して参ります。

教育・保育目標

- ◇興味関心を引き出し、豊かな知の基礎を育む(知)
- ◇豊かな体験を通して、強く善く生きる力の基礎を育む(徳)
- ◇豊かな心を支える丈夫な身体を育む(体)



育てたい子ども像

- 夢中になって遊ぶ子(知) ○自分も友達も大切にする子(徳)
- 心も体も元気な子(体)

札幌国際大学付属認定こども園 自己評価結果

4:よくできている 3:できている 2:あまりできていない 1:できていない

【分布】は実数、【評点】は平均値(MAX=3)

項 目		評 価	
＜A＞ 保育の計画性		分 布	評 点
1	園の教育・保育目標・子ども像等に基づいた保育計画を立てている	3 16 20	2.1
2	週案・月案の振り返りを次の保育に活かしている	5 15 10	2.2
3	保育中は常に子どもの安全に十分配慮している	7 12 20	2.3
4	季節感があり子どもの興味関心を喚起する環境構成を工夫している	4 10 7	1.9
5	子ども一人ひとりの主体性を大切にしたい保育をしている	3 16 20	2.1
【自己評価】 =改善点=			
公開保育から浮かび上がった課題や全員の意見（コクサイの保育を見直そう）等を基に、教育・保育全体計画や学年計画についてしっかり見直しを図る。中でも環境構成は園全体と各学年等のバランスを考慮した計画の整備が急務である。週案や月案は作成の目的・効果的な活用方法・振り返りの仕方等についてよく吟味し、より実効的なものにできるよう工夫したい。			

＜Ｂ＞ 子どもへの関わり		分 布		評 点
6	子ども一人ひとりを尊重し、信頼関係の構築に努めている	9	12	2.4
7	子どもの気持ちに寄り添い、励まし、安心感を与えるよう努めている	10	11	2.5
8	朝の視診を丁寧に行う等、健康状態の把握を心掛けている	7	14	2.4
9	個の成長と共に集団の成長を図れるような関わり方を工夫している	2	18	2.1
10	保育者自身も子どもと一緒に遊びや活動を楽しめている	3	14	2.0
11	不適切な保育とならないよう、関わり方に十分配慮している	5	16	2.3
【自己評価】 =改善点= 昨年度と比べ半数の項目で自己評価が上がった。中でも個と集団両方の成長が感じられた事は特筆すべき点であり、保育者の努力の賜物である。引き続き、子どもへの丁寧な関わりを大事にしていきたい。また、今まで以上に、保育者自身が子どもと一緒に遊びや活動を楽しむ意識を高め、例えば週案や月案にその旨具体的に盛り込む等の手立ても考えられる。保育者個人に任せるのではなく、園全体で意識を揃えたい。				

＜Ｃ＞ 特別支援教育		分 布		評 点
12	特別な支援が必要な子に対し、特性に応じた関わり方を工夫している	4	12	2.0
13	特別支援教育に関して十分な理解を図ろうと研修に努めている	1	14	1.7
【自己評価】 =改善点= 特別な教育的支援が必要な子に対しては、最大限関わり方を工夫しており、研修についても計画的に実施している。それにも関わらず自己評価が低い理由が何なのかを明確にしたい。その上で、お互いの困り感等を率直に出し合って話し合う場を設けたり、チームとして園全体でどう対応していくかの基本的な押さえを今一度整理したりする必要がある。				

＜Ｄ＞ 保護者対応		分 布		評 点
14	保護者の声に謙虚に耳を傾ける等、信頼関係の構築に努めている	4	17	2.2
15	子どもの園での様子を保護者にわかりやすく伝えるよう心掛けている	4	17	2.2
【自己評価】 =改善点= 引き続き、月1回の学級の保護者への連絡を計画的に行う。加えて、送迎の時間帯等、学年学級に関係なく挨拶プラス1の声掛けを徹底したい。保護者からの相談については、最大限傾聴に努めながら一緒に考える姿勢を大切にし、相談内容によっては園長・教頭も含め担任以外も適宜対応する等状況に応じてチームで対応する。				

＜Ｅ＞ 研修と研究		分 布		評 点
16	様々な研修で学んだことを日々の保育に活かしている	1	13	1.8
17	園内研修テーマに基づき、大学の森の活用に積極的に取り組んでいる	3	15	2.1
【自己評価】 =改善点= 今年度最大の研修は9月の公開保育であったと捉えると大変学びの深い1年だったと評価できる。森の活用に関しても森 week 等、今までにない工夫があり、園内研修も自然をテーマにしたものが多く様々な学びがあった。日々の保育への活かし方は自己研修による部分も多いので、今後も一人ひとり意識を高めて取り組むと共に、お互いの実践の交流等もするとよい。				

〈F〉 大学・地域との関わり		分 布	評 点
18	実習については、後進育成の観点から適切な指導に努めている	4 15 20	2.1
19	大学との連携を大切にし、人材や環境の活用を心掛けている	3 12 6 0	1.9
20	幼保小連携推進のため、小学校や地域との交流等に取り組んでいる	5 13 3 0	2.1
21	地域における子育て支援機関としての役割意識を持っている	2 14 5 0	1.9
<p>【自己評価】 =改善点=</p> <p>大学との連携については、内容や時期・園児や職員の負担等を考慮し、軽重つけて取り組むことができた。今後は新たな人材や環境の活用を開発したい。また、小学校とは教育・保育は勿論、幼保小連絡会等の場も有効に活用することができたと考える。新たに設けた〈21〉についてはあまり評価が高くなかったので、今後は未就園イベント等の取組内容について全体でしっかり情報共有ができるよう工夫する。</p>			

学校関係者評価委員会講評

〈評価委員〉小学校長1名、保護者3名(年少・年中・年長)

〈評価〉A:できている B:どちらともいえない C:できていない

※文書による回答

令和7年度 学校関係者評価委員の皆様より

【子どもの気持ちに寄り添い、心身を豊かに育むような教育・保育ができているでしょうか】

【全員評価A】

- 自己評価及び保護者アンケートの結果から、明確な園の教育・保育方針のもと園経営がなされていることが理解できる。特別支援教育に関して自己評価が下がっているのは課題意識の大きさと捉える。改善点として組織的対応の重要性を挙げている事が「子どもに寄り添い」姿勢として評価できる。保護者の自由記述にある、家庭での子どもの成長した姿についての肯定的な言葉が何より支えである。子どもが安全・安心だと感じられる保育を今後も継続していただきたい。
- 家庭の中とは違う環境なので、お友達とたくさんの事に挑戦したり新しい発見をしたり、いろいろな事を吸収して成長しているのが子どもを見てわかり、先生方が寄り添ってサポートしてくれているのが伝わります。
- 子どもの「やってみたい」という気持ちを大切に、自ら挑戦し発見できるような環境が整っていると感じられます。遊び込んで“根っこ”を育てていると感じます。
- 園の行事参加やバス送迎での先生方の子どもたちへの接し方を拝見していて、何気ない声掛けや対応が、子どもたちも安心して信頼しているように感じます。

【保護者の気持ちに、寄り添い、信頼されるような対応ができているでしょうか】

【全員評価A】

- 保護者アンケートの回答率から園への関心の高さが理解できる。保護者アンケートの集計結果において的確な分析がなされ、課題に対しての改善策も具体的で園の誠実さが伺える。一つ一つの回答に園の理念や保育者の思いが伝わるよう配慮されており、保護者に十分寄り添った姿勢を大切にしている事が確かめられる。
- どの先生が来ても、バス送迎の短い時間に今日の様子を教えてくれたり卒園した子どものお話をしてくれたり、よく見てくれているのがわかり、とても信頼しています。困った時も相談しやすくすぐ良かったです。
- 保護者からの意見・要望等に真摯に向き合っていると思います。より多くの保護者が安心して相談できるような信頼関係を築く事ができたら良いと思います。
- 普段から何でも相談してくださいと言ってもらっていますが、実際にこども園側でも相談できる場を作ってくれていて私自身もボック Time に参加しました。その時に教頭先生といろいろな話をする事ができ、心がとても楽になりました。これからもこのような場を作っていたら良いなと思っています。

【大学付属のメリットを活かした教育・保育ができているでしょうか】

【全員評価A】

- 大学付属である事の優位性として、環境や施設・人材を安全かつ効果的に活用できるメリットを活かした、独自の保育活動が実践されている事に大きな魅力を感じる。併せて子ども・保護者の実情を見据えながら常に見直しを図っており、子どもの育ちに直結している事が保護者アンケートの評価からも見られ、成果を上げている事が理解できる。
- 運動会や発表会等しっかり子どもを見て、保護者への配慮もしっかり整っていて毎年感謝しかないです。実習で来てくれるお姉さんやお兄さんもとても好きで、すごく楽しかったと教えてくれます。
- 森 week の実施により、コクサイの森という豊かな環境で継続して遊ぶ時間を設けた事が良いと思いました。他園にはない付属園のメリットをこれからも十分活かし、子どもたちにいろいろな経験をさせて欲しいと思います。
- 大学独自の施設を使っている行事は(運動会や発表会等)、子どもたちにとって良い思い出になり、貴重な経験になっていると思います。

【本園の取組について総合的に評価してください】

【全員評価A】

- 一貫した園運営のねらいを基にした学校評価がより綿密に行われており、自己評価が適切である。本校児童との交流時の園児の様子から、園において健やかな成長が育まれている事を感じ取る事ができた。小学校においても「特別支援教育」に関しては共通の課題となっており、今後連携をする事で子ども理解の深化拡充や見通しをもった具体的な手立ての共有が図れるものと考えている。これからも園の理念を大切に教育・保育活動の充実に努めていただくとともに、本校との連携も大切にいただければ願っている。
- アンケートや意見をその都度しっかり聞いてくれて、次の時には手厚く対応しているのが毎回素晴らしいです。常に進化して、子どもたち・保護者のために努力していただきいつもありがとうございます。
- 園の教育目標に基づき、1人ひとりを大切にしたきめ細かい保育が行われ、子どもを中心に据えた園づくりが行われていると感じます。このような取組が今後も継続される事を願い、更なる園の成長を期待しています。